

平成28年度 学校経営報告 東京都立戸山高等学校 校長 大野 弘

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 おおむね達成できた 【C】 あまり達成できなかった

I 教育活動への取組	自己評価
<p><b>1 オリンピック・パラリンピック教育の推進と体力向上</b></p> <p>① 全教科を通じて世界友達プロジェクトを推進し、海外からの姉妹校等の来校者を歓迎し交流するとともに、インターネットを通じて常時交流して理解を深める。</p> <p>② 全教科を通じて日本の歴史と文化に対する理解を深め、日本人としての自覚と誇りを涵養する。</p> <p>③ オリンピック・パラリンピックを良い契機として、生涯にわたりスポーツに親しむ姿勢を育てる。</p> <p>④ 特に本校生徒の弱い投擲力等について指導の工夫を凝らし、3年間で着実に向上させる。</p> <p><b>2 英語教育推進校事業の推進</b></p> <p>① 国際社会で貢献する人材を育成すべく、オンライン英会話やJET等の活用で特に「聞く」「話す」力を育てる。</p> <p>② 4技能を測定する外部検定試験を1学年と2学年全員に受験させ、総合的な英語力向上を図る。</p> <p>③ ALTおよびJETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力を育成するとともに、理数論文等でも的確な表現ができる力を育成する。</p> <p>④ 英語科教員のオンライン英会話研修により、英語による英語授業を円滑に行えるようにする。</p> <p><b>3 安全・健康等への取組</b></p> <p>① 体育科教員および部活動顧問教員の適切な指導で、重大事故0を継続する。</p> <p>② 地震等に対する避難訓練、防災教育を充実させ、万一来臨に備える。</p> <p>③ 障害のある生徒への的確な対応と、障害者理解を深める教育を行う。</p>	<p><b>1 オリンピック・パラリンピック教育の推進と体力向上 【B】</b></p> <p>① アメリカ合衆国、韓国、台湾等の姉妹校およびさくらサイエンスプランで来日した東アジア、南アジア、中央アジアの高校生と積極的に交流した。</p> <p>② 地歴公民科を中心として、英語科、国語科、理科なども取り組んだ。</p> <p>③ ④体育科を中心に、運動系の部活に所属していない生徒のスポーツへの親近感の育成と体力向上に挑み成果を収めた。</p> <p><b>2 英語教育推進校事業の推進 【B】</b></p> <p>① オンライン英会話とJETの活用は積極的に行われ、特にJETは当人の教育への姿勢もよく、生徒に好評であった。</p> <p>② GTECを受検させ、バランスの取れた4技能の育成に努めた。</p> <p>③ 特にJETは英語表現においても効果を表し、SSHの英語でのプレゼンテーションにおいても活躍した。</p> <p>④ 徐々に英語での授業が広まりつつある。</p> <p><b>3 安全・健康等への取組 【A】</b></p> <p>① 体育科教員および部活動顧問教員の適切な指導で、重大事故0が達成出来た。</p> <p>② 消防署の指導のもと、より現実的な訓練を実施した。</p> <p>③ 試行錯誤を重ね、施設設備だけではなく、授業内容のバリアフリー化を図った。</p>
<p><b>2 重点目標への取組</b></p>	<p>自己評価</p>
<p><b>1 学習指導</b></p> <p>① 年に2回学習状況調査を実施し、1日の自主学習時間を1、2年生は3時間、3年生は5時間を徹底する。</p> <p>② 1学年では、11月の定点観測のベネッセ模試総合成績において、偏差値74以上（東大）、偏差値68以上（難関国立大等）、偏差値60以上（国公立大等）のそれぞれの偏差値帯において、7月実施の結果を上回るようにする。</p> <p>③ 2学年では、定点観測の11月のベネッセ模試総合成績において以下の数値を目標とする。 74以上 16人 68以上 90人 60以上 203人</p>	<p><b>1 学習指導 【A】</b></p> <p>① 1年生は6月が2時間35分、11月が2時間57分、2年生は6月が2時間09分、11月が2時間44分、3年生は6月が3時間52分、11月が6時間24分だった。</p> <p>② 1学年では、最上位と上位でやや下がったが中位者はほとんど下回らなかった。</p> <p>③ 2学年では、定点観測の11月のベネッセ模試総合成績において以下の数値となった。 74以上32人 68以上124人 60以上262人 下降することなく、むしろ上昇した。</p>

## 2 進路指導

項目	人
① センター5教科以上受検者	250
② 同上760点(約85%)以上	45
③ 東京大学現役合格者	8
④ 難関国公立大学等合格者	30
⑤ 国公立大学現役合格者	128
⑥ 国公立大医学部現役合格者	3

③は④の内数であり、④は⑤の内数である。④は東大、京大、東工大、一橋大、国公立大医学部医学科である。

## 3 募集・広報活動

- ① 外的な変化があったとしても、戦略的な募集活動を充実させ志願倍率を維持する。推薦では男女とも4倍程度、一般入試では2倍程度とする。

## 4 スーパーサイエンスハイスクール事業の一層の充実

- ① 科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会での上位入賞80以上を目指す(昨年度73)。
- ② 生徒の英語での研究発表を60以上行う(昨年度58)。
- ③ インターネットやテレビ会議等により、海外の機関との共同研究を実現する。
- ④ USAおよび東アジア、オセアニア等の大学、研究機関、高校との直接研究交流を行う。
- ⑤ 地域向け講演会や研究発表会を年12回以上開催し、科学技術未来館や区教委等の理数啓発事業に生徒と教員を3回講師として派遣する。
- ⑥ SSHクラス以外の生徒向けの理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等を年間12回行い、理数リテラシーを育成するとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑦ 地域の小学校の教員向けの理科実験講習会を年間6回行うとともに、地域の小学校および小学校教員の研究団体への理数教育向上の支援を行い、地域の理数教育の拠点となる。
- ⑧ 東京周辺の理科、数学科の教員向けの研修会を本校で月に一回開催する。
- ⑨ 本校で、SSHの研究成果合同発表会を開催し、発表校18校以上、見学者350名以上を集める。
- ⑩ 本校で、地域の大学と高校の理系女子の交流会を開催する。

## 2 進路指導 【A】

項目	人
⑦ センター5教科以上受検者	258
⑧ 同上760点(約85%)以上	49
⑨ 東京大学現役合格者	5
⑩ 難関国公立大学等合格者	29
⑪ 国公立大学現役合格者	114
⑫ 国公立大医学部現役合格者	2

防衛医大を含む

## 3 募集・広報活動 【B】

推薦2倍、一般1.6倍であった。

## 4 スーパーサイエンスハイスクール事業の一層の充実 【A】

- ① 入賞55
- ② 外国語での発表117件
- ③ バーチャルシンポジウムの企画を練り、関係部署と調整中で、H29年中の開始を計画
- ④ USAは既に開始し、フィリピンとオーストラリアも交流先を確保、H29より交流開始
- ⑤ 新宿区や世田谷区などの小学校、中学校との交流や地域向け理数事業は順調に進んでいる。
- ⑥ 一般生徒向け理数振興事業も活発に行った。
- ⑦ 新宿区立富久小学校を窓口小学校の教員等との交流と教育研究を行った。
- ⑧ 化学、物理、数学において月1回以上の研修会を開催した。
- ⑨ アメリカ、韓国をはじめ国内外から小学校も含め29校の発表校が参加し、600名以上の児童生徒が参加した。
- ⑩ 講評者として大学教授・研究者15名、発表者として大学生・院生・若手研究者31名、11高校生97名であった。デンマークの高校からもポスターの参加があった。JAXAの廣瀬史子氏の特別講演を行った。
- ⑪ 3年目の中間報告では、これまでの努力を継続すれば研究開発のねらいが達成され更なる発展が期待されると評価された。
- ⑫ SSHでの論文により、京都大学1、東京工業大学2の推薦合格者が出た。

<p><b>5 チームメディカル (TM) の結成</b></p> <p>東京都教育委員会により、医学部等への進学を希望する生徒がチームを結成し互いに切磋琢磨し支えあう事業 (チームメディカル) の実施校に指定された。医師としてのキャリア教育と医学部進学指導を二本柱として、生徒の進路実現の支援をする。また、この事業において、クラウド等を活用して生徒個々の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握して指導するシステムを確立し、他の理工系進学者、文系進学者の進路実現に応用する。</p>	<p><b>5 チームメディカル (TM) の結成 【A】</b></p> <p>キャリア教育としては、東京医科歯科大学、自治医科大学、東京女子医科大学、東京都医学総合研究所、都立病院等と連携し、講演、見学、体験実習を行い、課題研究を課しその研究発表会を行った。進学指導としては、個々の生徒の学習時間と内容をスタッフが把握し指導した結果、3時間の学習時間がほぼ達成され、成績にも反映された。</p>
<p><b>3 次年度以降の課題</b></p>	<p><b>3 対応策</b></p>
<p>1 学習時間の確保 2 東京大学合格者の増加 3 医学部医学科志望者の進路実現</p>	<p>1 TM で実施したように、個々の生徒の学習時間と内容を担任等が把握し指導することにより、1、2年生で3時間以上、3年生で5時間以上の学習時間が確保できる。</p> <p>また、学園祭での学習時間の落ち込みを防ぐとともに、学園祭終了後には素早く学習習慣を取り戻させる対応をとる。</p> <p>2 成績上位者で、試験勉強科目を減らすために他大学へ志望変更する生徒を減らす。チームを作り集団での受験体制を形成する。担任だけでなく全ての教科担当が志願状況を共有し、声をかけ、学習させる。</p> <p>3 東大等とは異なり、3年での直前の追い上げ合格は困難である。TM への参加で、1年から学習時間を確保させ、基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。東京周辺に拘らず、日本全国で自分に合った大学を選択する支援をする。</p>